



校長室便り 第9号

# みのしま

令和3年1月15日

有田市立箕島小学校

## 朝の横断歩道で

通勤途上、道路を渡るため横断歩道近くで待機している小中高生の姿をよく見かけます。

道路交通法では、信号機のない横断歩道を渡ろうとしている歩行者等がいる場合、クルマは一旦停止しなければならないと規定されています。私も横断歩道手前で一旦停止するのですが、渡り終えた小中高生がこちらの方に向かって軽く会釈してくれることがよくあります。中には深々とお辞儀してくれる子もいます。

こちらは法律に基づいた当たり前のことをしただけなのに、なぜかとても良いことをしたような清々しい気分になり、その日一日がんばろうという活力源にもなります。

法律は別として、親切な行為を受けたときに感謝の気持ちを素直に表すというのはとてもいい習慣だと思います。その子どもたちの背後にいる保護者の温かさや、学校等の普段の行き届いた指導が見えてくるように思います。

集団生活や社会生活をより円滑で温かみのあるものにしていく上で大事なことは、感謝の気持ち、思いやりの気持ちは、より見える形で相手に示すことではないでしょうか。少なくとも私はそう考え、自校の子どもたちに、「君たちが横断歩道を渡ろうとしている時に、クルマが止まってくれた時にはね・・・」と語りかけるようにしています。

(本原稿は有田市青少年センターだより「かがやき」令和3年・2月号に掲載されるものと同内容です。)



## 朝のあいさつ

毎朝、学校の校門に立って登校してくる子どもたちに朝のあいさつ運動をしています。本校にもいろいろな子どもたちがいて、元気よくあいさつを返してくれる子、恥ずかしそうに小声であいさつをする子、声には出さずに会釈で返してくる子等々、その反応はまちまちです。

そのなかで私が一番うれしいのは、子どもの方から先に、笑顔で大きな声であいさつをされたときです。

あいさつをするうえで大切なのは、やはり（先に）（笑顔＝表情豊かに）（大きな声＝伝わるように）の3点だと思い、私もそれを心がけています。

日によって心身の状況は異なり、気分の乗らないときや体がだるいときもありますが、少し無理してでもこの3点（先に）（笑顔＝表情豊かに）（大きな声＝伝わるように）を心がけていると、自然と元気が湧いてきて、心身のコンディションも良くなるように思います。

一日のスタートは朝のあいさつからと言います。どうせするなら、自分にも他者にもできるだけメリットのあるあいさつをおこないたいと思い、毎朝校門に立っています。

(本原稿は有田市青少年センターだより「かがやき」令和2年・8月号に掲載されたものです。)

